

● 新年度を迎えて ●

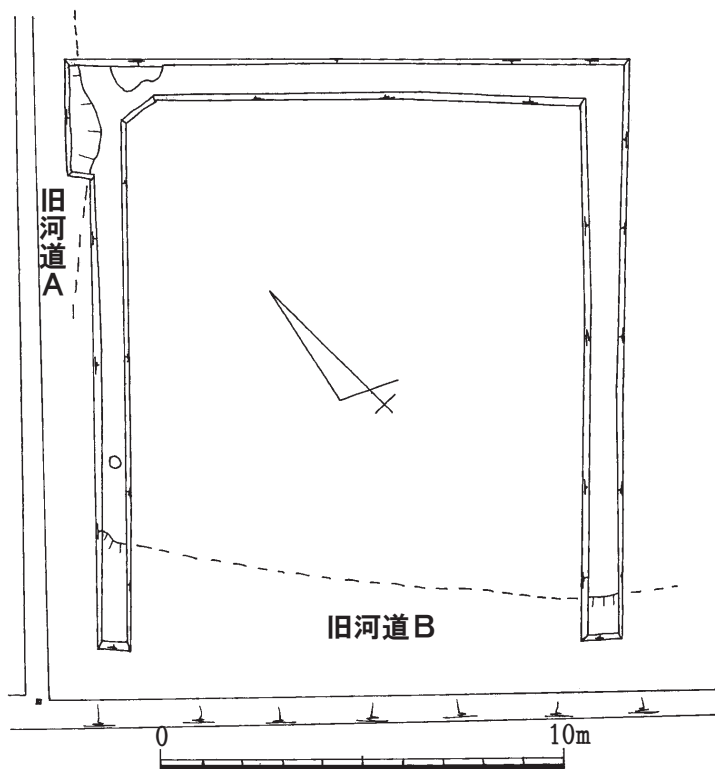
いよいよ新年度がスタートし、春の陽気とともに、埋蔵文化財センターもあわただしく動きはじめ、市内ではすでに発掘調査が開始している遺跡もあります。今年度は、守山市制40周年であるとともに、埋蔵文化財センターが設立されて30周年という節目の年にあたります。1970年代にはじまった“野洲川河川改修”という大事業の中で発見された、“服部遺跡”の調査で幕を開けた市内の埋蔵文化財調査は、その後も国史跡下之郷遺跡や伊勢遺跡などに代表されるように多くの重要な成果をあげ、全国の歴史ファンを魅了しています。また近年では特に、普及活動や体験学習にも力を入れており、復元された服部遺跡の“水田跡”での田植え体験など、こども達にも楽しんでもらえるような催し物も実施しています。30周年を迎えた埋蔵文化財センターは、これからも皆様が楽しく過ごしていただける場を目指して、職員一同励んでいきたいと思っています。

● 発掘調査の成果 ●

伊勢遺跡の調査 阿村町字下番田154番1の水田地において、個人住宅建築に伴い試掘調査を実施しました。この地点は伊勢遺跡の範囲内にあたり、特に大型建物が集中して見つかっている地域に隣接しています。

これまでの確認調査の成果からみて、今回の調査地点は、東西方向に伸びる旧河道Aと、栗太郡条里に平行する南北方向の旧河道Bが合流する地点にあたると推測されました。

伊勢遺跡の中心部に近い場所であり、重要な地点にあたるため、建築によって地下遺構が傷まない工法を採用していただき、地下保存を図りました。試掘調査は、掘削を伴う擁壁部分を中心に実施しました。耕作土・床土・灰黄色砂含粘質土等を約60cm掘削し、遺構検出を行いました。地山はこぶし大までの礫を含む黄色シルトで、弥生時代の遺構は確認されません。



伊勢遺跡 遺構図

でしたが、予想通り二つの旧河道の一部が検出されました。旧河道 A は、弥生後期の方形区画の一部を壊して東から西へと流れるもので、古墳時代の川跡とみられます。旧河道 B は北東から南西方向へと流れており、楼観とみられる SB-10 の一部や方形区画の一部を切っており、中世の川跡と推測されます。

今回の調査地点は、周辺の田んぼに比べて約 1 m 低くなっていますが、この低い地形は旧河道 A に沿って帯状に東西方向に伸びています。今回の調査で弥生時代の遺構が検出されなかったのは、旧河道 A によって遺構面が削り取られ、遺構そのものが消失したことによるものと推測されます。(伴野)



伊勢遺跡 東半部 遺構図

● 埋文センター 春の訪れとともに ●

(1) 埋文桜の写生大会 4月10日(土)に、市内の美術教室である“あうん塾”(塾頭 北村 潔氏)主催の写生大会が催されました。この教室は、主に小学生が中心となったもので、この日は親子合わせておよそ30人の参加者がありました。今回は、当センターが誇る“満開の桜”を描こうと企画されたもので、当日は好天に恵まれたこともあり、満開に広がった桜を、キャンパスに思い思いに描く様子が見られました。その後、写生を終えた子供達は、埋文センターの体験の一つである“木工細工”に没頭し、かわいいキーホルダーに仕上げて楽しんでいました。完成した絵は“埋文センター春季特別展”の一面に展示し、多くの親子連れが見学に来られました。



(2) 水田で泥んこ遊び!? 5月6日(木)には、中洲幼稚園の園児14名が、来館しました。園児達の目的は、“水田での泥遊び”です。現在埋文センターには、服部遺跡で発見された弥生時代前期の水田の一枚(5m×3m)が復元されています。これは当センターが主催する体験学習用として、昨年に作られたものですが、本格的な田植えシーズンを前に、今回特別に泥遊び場として開放したのです。普段は遊ぶことのできない水田を前にした園児達は、大いにはしゃぎ、水田の中を縦横無尽に走り回っていました。

● 機関紙『乙貞』の電子化についてのご案内 ●

昭和56年1月から発行を続けてきた当センターの機関紙『乙貞』は、時代を経るにつれ、少しずつ見やすい様式へと変化しながら皆様にお届けしてきました。そして今年度の第2号となる7月発行の第171号から、新たに紙面の電子化(PDF化)を図ることにいたしました。その理由としては、幅広い方々からも当紙を求められることがあり、できるだけ多くの方々に目を通していただけるような工夫が一つの課題として浮かび上がってきたからです。そこで、そのような要望にお応えするためにホームページ上に掲載することとなった次第です。よって次号からは、【守山市のホームページ (<http://www.city.moriyama.lg.jp>)】の【各課の窓口】→【埋蔵文化財センター】にある『乙貞』のファイルを閲覧していただくようお願いいたします。なお、当面の間は一部の関係諸機関には、これまで通り紙媒体で当紙の発送を行います。



● 新 人 紹 介 ●

西村 あやめ（事務員） 4月より、埋文センターでお世話になっております西村あやめです。豊かな田園風景と木々の緑に囲まれた、静かな環境の中で楽しく仕事をさせて頂いております。考古学についての知識は全くありませんが、体験学習に参加することも達のお手伝いなどを通して、一緒に体験し、学んでいきたいと思っています。どうぞお願い致します。

● 歴史入門講座 募集のお知らせ ●

今年度も6月から12月にかけて計6回にわたって、歴史入門講座を開講いたします。今年は、埋蔵文化財センター開館30周年の記念すべき年です。その設立の契機となった服部遺跡をはじめとして、これまで市内で発掘された重要な調査成果を中心に、守山の歴史群像を理解するための手引きとなる話題を、一般の方々にもわかりやすく紹介していきます。

【全体テーマ】「遺跡調査のとびらを開く―守山人の足跡探し―」

【講座日程】

第1回 6月19日（土）「もりやま発掘の幕あけ＝服部遺跡の調査を振り返る＝」

講師 大橋信弥 氏（県立安土城考古博物館）

第2回 7月17日（土）「縄文から弥生にかけての琵琶湖沿岸地域＝土器・墓・集落＝」

講師 松室孝樹 氏（財団法人滋賀県文化財保護協会）

第3回 8月21日（土）「弥生から古墳時代のムラの変貌」

講師 近藤 広 氏（財団法人栗東市文化体育振興事業団）

第4回 9月18日（土）「遺跡を撮る＝文化財撮影の半世紀＝」

講師 寿福 滋 氏（美術文化財カメラマン）

第5回 10月16日（土）「琵琶湖周辺地域と下之郷遺跡の植生変遷史」

講師 佐々木尚子 氏（総合地球環境学研究所）

第6回 12月18日（土）「考古学は未来を照らす～弥生人からのメッセージ～」

講師 佐古和枝 氏（関西外国語大学）

【開催場所】市役所東棟3階会議室（初回のみ）

市立埋蔵文化財センター2階会議室（第2～6回）

【開催時間】午前9時30分から正午まで

【定 員】先着60名

【受講料】1,200円（講座6回分。1講座のみ受講される場合は、1講座200円。）

【申込み期間】平成22年5月15日から同年6月14日まで

【申込み先】**守山市立埋蔵文化財センター**

電 話・FAX 077-585-4397